

令和6年度第2回安八町・東安中学校組合合同総合教育会議録

開催日時 令和6年12月16日（月）午後4時00分から

開催場所 安八町中央公民館1階中会議室

出席者 町長 岡田 立

副町長 岡田 武史

大垣市教育委員会庶務課長 鈴木 浩成（大垣市教育長代理）

校長会長 辻村 由香里

総務課長 河合 一

こども家庭課長 田中 弓

（教育委員）

（事務局）

教育長職務代理者 菊田 美由紀

教育長 青山 桂子

委員 大橋 香代子

教育課課長兼ハートピア安八館長 坂 和由

委員 棚橋 剛

教育課課長補佐（生涯学習係） 松久 里美

教育課課長補佐（学校教育係） 中原真奈美

1. 開会

2. あいさつ 町長

安八町でも少子化が進んでおり、子ども達の健やかな成長と学びを支えるために、地域と一体となった教育の充実や不登校対策、教育環境の充実は重要である。地域の教育課題やあるべき姿を共有して、参加いただいた皆様から忌憚のないご意見をいただき、民意を反映した教育行政の推進を図りたい。

3. 会議事項

（1）報告

（中原課長補佐より）

①中学校部活動の地域クラブ活動移行について

11月末の状況は、9部が地域クラブに移行済み、8部活が移行未完了である。地域移行できていない部活動については、今後も学校、指導者、行政などが協力し、地域移行に向けて取り組んでいきたい。

②学校におけるプール開設について

上下水道代、薬剤費、管理費などプールの維持費が高額になっている。来年度は、水泳の授業の充実と経費削減のメリットを見込んで、牧小学校の児童を名森小学校にバスで送り、一緒に授業を行う方法も検討している。

（坂課長より）

③「学校の在り方検討委員会」の設立に向けて

今年度の児童数は3小学校で742名。6年後には400名あまりになることが予想される。学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題が課題となっており、本格的に考える必要がある。まずは、第一段階として、小学校の適正規模を検討するため「安八町小学校適

正規模検討委員会」を設置し、議論を進めることとする。

4. 意見交換

【中学校部活動の地域クラブ活動移行について】

(棚橋委員) 今後近いうちに、地域移行予定の部活はあるのか。

(坂課長) 現在のところはない。吹奏楽部では、楽器の運搬・保管場所、活動場所などの問題があり、難しい。

(棚橋委員) 吹奏楽部を単独で行うことはできないのか。

(坂課長) 1年生がある程度入部すれば良いが、各校の部員人数が少ないので、合同で行うと良いと考えている。

(菊田委員) 合同チームになると、保護者の送迎が難しく、部活には入れない子もいるのではないのか。どの子も入りやすい環境を整えたい。

【学校におけるプール開設について】

(辻村校長) 水泳の授業を一緒に行うというのは、プール開設に関わる予算を抑えるためという考え方で良いのか。

(坂課長) その考え方で良い。

(辻村校長) 学習指導要領を見ると、「水泳の領域は、第1学年及び第2学年においては、全ての生徒に履修させることとしているが、第3学年においては、器械運動、陸上競技、水泳及びダンスのまとまりの中から1領域以上を選択して履修できるようにすることとしている。(水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること)」となっている。3年生を水泳以外の種目に変えることも可能である。そうすればプールの稼働日を減らすことができる。

暑い中、登龍中まで行くことも難しい。熱中症指数が高くて急遽体育の授業内容を保健に変更することもある。

東京オリンピックの頃にプールを開設している学校が多く、現在、どの学校においても老朽化が懸念されており、修繕箇所を気付けながら使用している。町として水泳の授業をどのように実施すると良いのかについて考えていくことも必要である。

(教育長) 海津市では、5～11月にかけて市民プールを活用して水泳の授業を実施している。民間のプールを利用すると、一人当たり1回につき3,000円程度必要になってくる。コロナ禍で水泳の授業が行えなかった時期もあり、泳げない子も少なくない。小学校では、10時間程度は履修させたい。

(辻村校長) 夏は暑すぎて熱中症指数が高く、外で活動ができない。体育館で体育の授業を行うことも、休み時間に外で遊ぶこともできない。プールの時期を前倒しにすることについても考えたい。

(棚橋委員) 牧小学校児童が名森小のプールへ行くことを、牧地区の方がどのように思われるか。プールだけではなく、いずれは他の活動もそうなるのではないかと考える方もいるだろう。丁寧な説明をして、地域の方にご理解をいただくことが大切である。現在、牧小学校のプールの稼働日は47日間。授業を詰めて実施すれば、開催期間を短くして経費削減につながるのではないだろうか。

(町長) 牧小と名森小のプールの共同利用については大切な話なので今後も丁寧に進めていき

たい。

【学校のあり方について】

(菊田委員) 体育や音楽の授業を、多くの児童で一緒に行うよさがある。「みんなでやる楽しさ」を感じさせたい。英語の授業も一緒にやっても良いのではないか。水泳の授業にとどまらず、年間通した活動を仕組み、仲良くなれる道筋をつくっていくことも良い。

(大橋委員) 6年後には、どの小学校も1クラスずつになり、今後について考える時期が来たと感じる。安八町としてどのようにしたいのかを明確にし、今の子ども達の様子を鑑みて視察した学校（北方学園や上石津学園など）の良さを取り入れたい。保護者、地域の方の意見を聞きながら慎重に進めたい。

(棚橋委員) 牧小学校の児童数が少ないから学校を統合するという考え方でない方が良い。全国的には学校の適正規模・適正配置についての動きがあり、何とかしないといけないという考え方もよく分かる。しかし、牧小学校がこれまでと同じような人数で推移し、複式学級にならないことは分かっている。数字ばかりを追うのではなく、小規模校のよさを十分に認めた上で慎重に進めていきたい。

(坂課長) 学校の在り方検討委員会は、統合をめざすためのものではなく、学校の在り方について考える委員会である。

(鈴木課長) 大垣市は、時小や一之瀬小などの複式学級があり、上石津学園を開設することになった。しかし、行政側から「統廃合をしましょう」ということは言えなかった。時小・一之瀬小校区と牧田小・多良小校区との温度差もあった。慎重に進めることが大切である。今後、施設の老朽化がどれくらいなのかについて示すことも必要である。施設の寿命は約80年と言われているため、「まったなし」となる時期が訪れる。人口減少と老朽化による校舎改築の両輪で考えていくことが大切である。

(町 長) 学校の統廃合については、急いではない。時間をかけ、多角的に考えて、意見をいただきながら進めたい。

5. 閉会

今後、教育委員会で検討すべき点については、教育委員会定例会でも話題にしていきながら検討することを確認し、午後5時00分に閉会